# 高等学校第1学年 国語科 学習指導案

期 日 平成24年10月30日(火)第5校時場 所 熊本県立鹿本高等学校 1年3組教室指導者 教諭 桑島 秀光

#### 1 教材名

評論(一) 「食を料理する」 松永澄夫 著 (数研出版「国語総合」)

#### 2 教材について

#### (1) 教材観

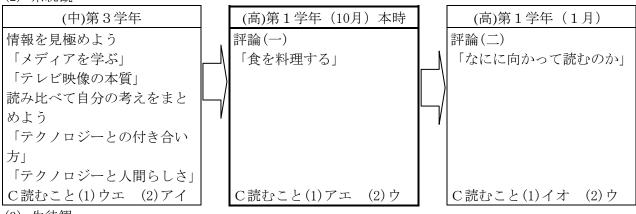
インターネットの普及により、現代社会では誰もが容易に情報発信することができるようになった。 日本人は欧米諸国の人々に比べて自己表現が苦手だと言われてきたが、インターネットにつなぐと多 くの人の様々な自己表現を見ることができる。一方で、受け取る側としての姿勢はどうか。一時期、 「KY(空気読めない)」という言葉が流行したが、実際に、場の雰囲気が読めない、察することがで きない、言葉通りにしか受け取れないという生徒は多いのではないか。パソコンや携帯電話を介した コミュニケーションが増え、直接相手と対面したコミュニケーションの機会が減ってしまい、相手の 表情を読むとか相手の発した言葉をかみしめるとかいった体験が不足しているのではないか、などと いうことも考えさせられる。

本教材は、食にまつわる問題を扱ったものである。食は今日的課題を多く抱えている。たとえば食糧自給率の低下、安全性の問題、栄養バランス、食事のとり方等々、実に多様な問題をはらんでいる。中でも、本教材では「食の無駄」をとりあげ、無駄が出現する原因を「食の商品化」の流れの中にとらえた。さらに筆者は、「食の商品化」によって多様な食の形態が生まれ、おかげで人々は様々な束縛から解放されたが、そこには「食のむしろ貧しい方向への変質」をみることができるのではないかと投げかける。そして最後には、食を文化(生活文化)としてより高次にとらえ、文化の消失を危惧するのである。生活の基本とも言える「食」について考察することを通して、自己や社会の在り方までも考えさせる文章である。

本教材では、「読むこと」の指導事項工を受けて「筆者の意図をとらえる」ことを主な指導事項とする。「筆者の意図を考える」学習を通して、文章に込められた筆者の意図をとらえたり、自分の意図が伝わるように表現したりすることができる力を育成したい。そのために、意見文を書くという言語活動を設定した。本時の授業では、書かれた内容や表現の仕方に着目しながら筆者の意図を探っていくという展開を試みたい。この教材文に特徴的な表現を3カ所取り上げ、内容と照らし合わせながら表現の工夫をもとに筆者の意図に迫っていく。また次時では、生徒が本教材の表現の工夫を用いて意見文をまとめることにより、「筆者の意図をとらえる」という指導事項の定着を促したい。

前述した現代の若者の状況に照らし、人の発する言葉を丁寧にとらえ、言葉の背景にあるその人の 思いを汲み取る力を生徒たちに身に付けさせたいと考える。

#### (2) 系統観



#### (3) 生徒観

評論教材に関する生徒の実態調査を行った(9月末実施)。この時点で生徒はまだ評論教材を学習していなかったため、「『評論』は中学校までの学習で言うと、『説明的な文章』にあたります」と但し書きを付けて実施した。

調査では、「筆者の考えや要旨」「論理の展開」「筆者の意図」の各項目について、「i 文章を読むときに考えながら読んでいますか」「ii 文章を読んでとらえる(理解する)ことができますか」という 2 点を尋ねた。その結果「読むときに考えながら読んでいる」生徒は各項目について  $25\%\sim40\%$ に過ぎないが、「とらえる(理解する)ことができる」と答えた生徒は  $40\%\sim50\%$ いるということが分かった。

今後生徒たちが読む文章は分量が多くなり内容も抽象度が増していくことを考えると、論理の展開等の構成や筆者の考えやその意図といった内容について、「考えながら読む」という姿勢を身に付けることの重要性を感じる。

また、事前に行った意識調査の結果から、本クラスは協同学習の意識が高いことがわかった。このことをいかしグループ学習を設定することで、生徒同士が質問し合いながら互いの考えを深めることができるのではないかと考える。

## (4) 指導観

- ○本教材は本校に入学して初めて学ぶ評論教材である。中学校の「説明的な文章」の学習で学んだことを思い出させながら、評論を読む目的や読み方を確認する。
- ○段落の役割や段落同士の関係、意見と具体例の関係などの構成をとらえさせ、文章構成を考えながら読むことにより読解が深まることを学ばせる。
- ○生徒同士の意見交換の場を設定し、考えを共有したり深めたりする態度を養う。
- ○「筆者の意図を考える」学習を通して、文章における書き手の意図をとらえたり自分の意図が伝わるように表現したりすることができる力を育成する。
- ○日頃のコミュニケーションにおいても、相手の意図を汲み取る姿勢が大切であることを伝える。

## Aプロジェクト 思考力、判断力、表現力等の育成の視点から

本教材で高める思考力、判断力、表現力等とは、文章に表れている筆者の思考の流れや考えの強調点を読み取って筆者の意図をとらえたり、意図がよりよく伝わるように自分の考えを文章で表したりすることができる力ととらえる。

この能力を高めるために、提示した本文中の三つの箇所について表現の特徴をとらえ、内容と照らし合わせながら筆者の意図に迫る学習、また、筆者の意図を汲み取ったうえで自分の意見をまとめるという学習を行う。文章に書かれた内容や表現の仕方をもとに筆者の意図をとらえる力を身に付け、日常生活におけるコミュニケーションにおいてもいきてはたらく力としたい。

## 3 教材の目標と評価規準

教材の目標	○段落の役割や段落同士の関係、意見と具体例の関係などの構成面を考えながら			
	売むことができる。			
	○内容や表現の仕方について確かめ、筆者の意図をとらえることができる。			
関心・意欲・態度 ①既習事項について、積極的に発言し、互いに共通理解を図ろうとして				
	②文章の内容に関心を持ち、文章構成を考えながら読もうとしている。			
読む能力 ①評論の表現の特徴である、意見と具体例を読み分けている。				
	②何のための具体例なのかを読み取っている。			
	③文章に表れている筆者の思考の流れに目を向け、なぜこの文章を書いたの			
	か、なぜこのように書いたのかなど筆者の意図に迫っている。			
知識・理解	①文章の組み立てを理解している。			

## 4 指導・評価の計画(6時間取扱い 本時5/6)

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ※プロジェクトの視点から	評価基準 (評価方法)
1	1	○評論を読む目的や読み方	・中学校の時に学んだ、説明的な	関心・意欲・態度①(話し合
		について話し合う。	文章の読み方を思い出させる。	いの観察)
		○教材の目標を知り、学習の	・「意見文を書く」という学習の	既習事項について、積極的に
		見通しを持つ。	ゴールを示す。	発言し、互いに共通理解を図

		○タイトルや授業者が提示	・「世界で一番食べ物を○○する	ろうとしている。
		する課題をもとに、本文の内	国日本」の○○に入ることばを考	関心・意欲・態度②(様子の観
		容について想像する。	えさせ、興味・関心を喚起する。	察)
		○本文を読み、文章構成を考	・中学校で学んだ、説明的な文章	文章の内容に関心を持ち、文
		える。	の構成を思い出させる。	章構成を考えながら読もうと
				している。
2	2	○形式段落1~4を読み、無	・第2次全体を通して、筆者の意	読む能力①(発言)
		駄の出現について考える。	見部分と例示部分の読み分けをさ	食の無駄に関する筆者の考え
			せる。	を理解し、意見と具体例を読
			・食の無駄について、身近に引き	み分けている。
			付けて考えさせる。	
	3		・食の商品化とはどのようなこと	読む能力②(ノートの観察)
		の商品化がもたらすものに	か、食の商品化によって何が起こ	食の商品化と食の無駄の関係
		ついて考察する。	ったかを整理させる。	をとらえ、食の商品化が人々
				にもたらしたものを読み取っ
				ている。
	4		・具体例の内容を別の視点で見る	読む能力②(ノートの観察)
			ことで、筆者の述べる食の貧しさ	多様な食の形態が提供された
		の強い生活文化とはどのよ	について考えさせる。	ことによる、人々の食の変質
		うなものか、考える。		を理解している。
3	5	○文章の内容や表現の仕方	・内容を確認し、表現の特徴を考	知識・理解①
	本	について確認し、筆者の意図	えさせたうえで、筆者の意図に迫	論理の展開を理解している。
	時	を考える。	らせる。	読む能力③(ワークシートの
			※具体例や文末表現に着目して意	観察)
			図をとらえる。	内容や表現の特徴をもとに、
				筆者の意図をとらえている。
4	6	○意見文を書く。	・文章の内容や表現の仕方、筆者	
			の意図の読み取りをもとに、自分	9
			の意見を書かせる。	意図が伝わるように工夫して
			※前時に学習した表現の特徴を生	
			かして書かせる。	る。

## 5 本時の学習

(1) 目標

内容や表現の仕方について確かめ、筆者の意図をとらえることができる。

(2) 評価基準

「読む能力」 (ワークシートの観察)

(B基準)表現に込められた筆者の意図を挙げている。

(A基準)表現の特徴と筆者の意図を関連付けてまとめている。

## (3) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示	指導上の留意点及び評価 ※Aプロジェクトの視点	備考
導入 5分	1 前時までの読解 を振り返る。【個別→ 一斉】	○ノートを見て、意味 段落ごとの要点と筆者 の主張を確認しましょ う。	○論理の展開も確認する。	掲示物
展開 40 分	2 本時の課題を確認する。【一斉】	筆者の意図を考えよう。		

ワ	_
ク	シ
_	$\vdash$

- 「意図をとらえ る」とはどういうこと か考える。
- ○「意図とはどういう 意味ですか。」
- ○「おなかがすいたね」 と言われた時、発言者 の意図としては、どん なことが考えられます カ?
- 4 課題に取り組む。 (1) 学習の見通しを持 つ。【一斉】

○ワークシートに挙げ た三つの表現につい て、「筆者はなぜこの ように書いたのか」、 その意図を考えていき ましょう。

なりの考えを持つ。 ①表現の特徴を考え る。【個人→一斉】

(2) 課題に対して自分 ○まず、それぞれの表 現の特徴を考えてみま しょう。

- ②筆者の意図を考え る。【個人】
- I ~ III の表現につい て、筆者はなぜこのよ うに書いたのでしょう か。
- (3) 互いの考えを交流 する。【グループ→一 吝】
- ○筆者の意図について 考えたことを発表しま しょう。また、友達の 考えに対して疑問点や 感じたことを述べ、筆 者の意図について話し 合いましょう。
- (4) 考えをまとめる。 【個人】
- ○話合いをもとにし て、自分の考えを見直 してみましょう。 ○ I ~IIIを踏まえて、 筆者がなぜこの文章を 書いたのか、その意図 として考えられること をまとめましょう。

- ○相手の意図を汲み取ることについて 話す。
- ○「意図」という語について確認する。
- ○日常の中の一場面を用いて、「意図を とらえる」ことについて説明する。空腹 であるという状況を示すほか、何か食べ たい、相手を食事に誘いたい、今やって いることをやめたい等の意図があると きにも使うことを説明する。
- ○ワークシートを配付し、この後の授業 の流れを説明する。
  - ・表現の特徴を考える。
  - ・表現の特徴を踏まえて、筆者の意図 を考える。
  - グループを作り、考えを交流する。
  - 自分の考えを見直す。
  - 学習のまとめを行う。

〈取り上げる箇所〉

- I 形式段落3、4の具体例
- Ⅱ 形式段落6の一文
- Ⅲ 形式段落 10~12 の文末表現
- ○表現の特徴に気付かせる手立てとし て、
- どのような無駄が発生しているか 単語で答えさせ、板書していく。
- Ⅱ 前後の文も含めて、息継ぎせずに一 文ずつ音読させる。
- Ⅲ 音読させ、共通点を見付けさせる。
- ※Aプロジェクトの視点 〇具体例の羅列、冗長な文、疑問形の多 用などの特徴をもとに、文章の内容と照 らし合わせて考えさせる。
- ○他者の発言については色ペン等を用 いてメモを取るよう促す。自分の考えを 消しゴムで消さないよう注意する。
- ○根拠を示して筆者の意図についての 考えを述べるよう助言する。

【評価:読む能力③(ワークシートの 点検)】

文章に表れている筆者の思考の流 れに目を向け、なぜこの文章を書い たのかという筆者の意図に迫って いる。

〈B基準に達しない生徒への手だて〉 ワークシートやメモを振り返らせ、筆者

			の思いに着目させる。	
まと め 5分	5 本時の学習の確 認をする。 6 次時以降への見 通しを持つ。【一斉】	<ul><li>○学習したことをいか して、日頃自分の考え ていることをまとめた 意見文を書きます。</li></ul>	<ul><li>○コミュニケーションにおいて意図を とらえることの大切さを確認する。</li><li>○本時の学習をいかしていくことを確 認する。</li></ul>	